

1 グループでは日本と韓国の様々な文化について互い話し合いながら似ている点がとても多いと感じました。その中でも私達1グループは正月の遊び文化について興味を持ちました。似ていたり少し違ったりする正月の遊びについてまとめようと思います。まず私達が似ていると感じた遊びは**윷놀이**と**すごろく**です。윷놀이は4本の木の棒を投げてその木に書いてある도 개 걸 윷 모を見て点数に合わせてコマを進めていく遊びです。対して日本のすごろくは木の棒ではなくすごろくを二つ投げ、足した数の分だけコマを進めていく遊びです。次は**凧揚げ**と**연날리기**です。この遊びに関してはほぼ遊び方が同じですが紙、布、ビニールなどを木などでできた枠に布や紙、ビニールなどを張って反りや形を整えたタコをつくります。そのタコをどれだけ高く揚げられるか競う遊びです。しかし日本よりも韓国のタコの方が形が様々で四角、ひし形などがあります。続いて**コマ遊び**と**팽이치기**です。この遊びも両国遊び方は同じでコマを回して長く回っていた方が勝ちです。また主に男の子がするという点まで同じです。続いては**韓国特有の遊び**について紹介します。まず**널뛰기**です。日本のシーソーのようなものに座らず立ったまま飛ぶ遊びです。昔、顔を出して出歩けなかった女の子が널뛰기를しながら壁の外を見ようとしていたと言われていました。次は**제기차기**です。こちらは男の子の遊びでチェギという羽のようなボールを蹴りあって回数が多い方が勝ちという遊びです。続いて**日本特有の遊び**で**福笑い**があります。手ぬぐいで目をやかして顔のパーツを見ないで顔の輪やくにどこが目、鼻、口なのか予想して置く遊びです。新年早々笑いがこぼれるので新年が良い年になる意味がもたれています。次は**羽根つき**です。だいたい二人位で遊ぶゲームで羽根を付き合って、先に羽根を落としてしまった方が負けという遊びです。昔は負け方の顔に墨を塗ろうという罰ゲームもありました。今は特にそこまでやらないけどその代わりに何か物をかけてやっています。羽根を付き合う事で厄払いの意味を持つそうです。互い違う国ですが正月遊び文化を通じて分かったことは日本でも韓国でも大切な節句の際は家族、親戚が集まって一緒に過ごすということでした。最近では家族の数が減り、一緒に過ごす時間より個人の時間が増えたため節句の時だけでも**伝統遊び**を**楽しみながら大切な時間を過ごすのも良いのではない**でしょうか。

日本人と韓国人の「なんであんなものを食べるの？」

秀林外語専門学校 日韓通訳翻訳学科

日韓文化比較 2グループ

こんにちは。日韓文化比較の 2 グループです。日本と韓国は近いですが、その文化を始め違うものもたくさんあります。2002 年ワールドカップをきっかけに日韓関係がよくなりお互いに対する関心も高まりましたが、慣れるまでは理解できないことがありますよね。

私たちのグループでは、日本人と韓国人がお互いに理解できない食べ物についてテーマを決めました。

日本人が理解できないと口を揃えて言う、韓国人が好んで食べる食べ物は「ポンデギ(直訳としてはさなぎだが、この文で言っているのは蚕のさなぎをゆでた食べ物である)」です。韓国の市場に行くと、屋台で売っているポンデギを当たり前のように買いおやつみたいに食べ歩く光景を見て、日本人は「なんで虫を食べているんだらう!?!」と少なからず驚きます。そして、虫だということは別としてもポンデギの独特な匂いのせいで全く食べる気になりません。韓国では大型スーパーマーケットでポンデギを缶詰にしたのも販売しているほど人気があります。それでは、韓国人はいつから、なぜポンデギを食べるようになったのでしょうか？

「ポンデギ」が蚕の幼虫であることはご存じでしょうか？韓国の経済が貧しかった1960～70年代には糸を作る製糸工場がとて多かったです。食べ物があまりなかった時代、肉や卵などを普段食べられなかった韓国人は他の食べ物でタンパク質を補っていました。そのうちの一つがポンデギなのです。製糸工場が多かったので、蚕のさなぎも簡単に手に入りました。虫にはタンパク質が多く含まれているので、韓国式の調理方法で成虫になる前の蚕のさなぎを食べるようになったわけです。その時代は、栄養を取れる物が少なくて食べていたのですが、ポンデギは今や高タンパク食品であるという理由でダイエット食品や、こうばしくてしょっぱい味がお酒によく合うといって酒のつまみとしても好まれています。韓国人の場合、幼い頃には虫だということを知らずおいしく食べていたため、大人になって「ポンデギ」のことを知っても「虫」という感覚よりは「食べ物」という感覚だと言います。抵抗はあると思いますが、食べてみると意外と「おいしい！」と思うかもしれませんので、日本人の皆さんも今度韓国に行った時に一回チャレンジしてみたいはいかがでしょうか？

韓国人が理解できないという日本の食べ物は梅干しです。韓国で「チャンアチ(干切にして干したダイコンやキュウリなどを醤油や辛い味噌などに漬けたおかず)」と言えば韓国独特の甘辛味を想像する人が多いため、食べた時そのイメージと全く違うため感じる味の衝撃もあると思います。特に梅干し特有の酸っぱくてしょっぱい味は、韓国人が日本で長く暮らしてもとても慣れないものだと言います。「日本のコンビニにはおいしいものが多い」と思っておにぎりを選んだが、想像していた味と違って、日本のコンビニで梅おにぎりは買って食べないようにしようと思った韓国人も多いと言っていました。しかし、日本ではお弁当に欠かせないおかずランキング 5 位にランクインされるほどよく食べられる食べ物の一つ

です。焼酎に梅干しを入れて梅干し割にして飲んだり、蜂蜜に漬けたものやしそ味の梅干しがあるなど、種類も多いです。おかずではなく、おやつとして梅干しだけ食べる日本人も多いです。では、日本人はなぜ梅干しを好んで食べるのでしょうか？

梅干しはとても健康に良いものです。消化を促進したり、疲れやすい夏には梅干しに含まれているクエン酸と塩分が脱水症の防止や暑さに耐えるのに役立つと言います。そして、お弁当に入れるとお酢の効果で他のおかずやご飯がすぐ腐らないようにする役目も果たします。日本人に「梅干しのどこが美味しいの？」と聞くと特別な理由はなくただおいしいと答えます。常に食べたくてしょうがないというわけではないですが、ないと寂しい、まるで韓国人にとってのキムチのような存在であるとも言えるでしょう？日本人は梅干し特有の酸っぱい味を魅力ポイントとして挙げており、体がだるくなったり、車酔いをした時、そして激しい運動をした後体が疲れている時特に食べたくなると言います。梅干しが苦手だと言っている韓国の皆さん。梅干しは健康に良いので、一度食べてみるのも悪くないでしょう。

韓国のポンデギと日本の梅干しを比較してみましたが、とても近い国であるにも関わらずこんなに食べ物に対する好みが違うのは不思議でしょう。しかし、お互いの理解できない食べ物をもう少し受け入れたら、自分も知らないうちにその食べ物を好むようになるかもしれません。これからもっと仲良くなる日韓関係を願い、2グループのレポートを終わります。

作成者

金世憲(キム・セホン)、金善榮(キム・ソンヨン)、五位野夕紀、市川美咲、小嶋梨夏、石塚智明
氏家華乃、狗飼直也

日本と韓国の正月文化比較

区分	韓国	日本
日程	<p>正月朝、茶礼(正月やお盆などに行う祭事、儀式)をする場合は、茶礼に必要な装飾や料理の準備。朝早く起き男性は装飾の、女性は料理を作り茶礼の用意をする。家族や親戚が集まり茶礼を始める。次に年長者の新年の挨拶をし、お年玉をもらう。茶礼で使った料理と雑煮を朝食とする。お墓参りへ行き、日本のようにお墓の手入れ、花などを供える。</p>	<p>大みそか、細く長く達者に暮らせることを願い、年越しそばを食べる。深夜0時を挟んで除夜の鐘を突く。おせちやお雑煮を食べ、初詣へ向かう。新年の挨拶文の年賀状の確認など、元日から挨拶に出かけるより家族で過ごす傾向があるようだ。</p>
飲食	<p>三色ナムル～(根)豆モヤシナムル…先祖・茎ナムル…両親・ほうれん草ナムル…自分 このように、家族構成を植物に例え、先祖と親を仕え、人として善を尽くすという意味。茶礼で使った料理は先祖の徳を頂くという意味。 配置の意味～魚東肉西…魚は東側、肉は西側、頭東尾西…頭は東側、しっぽは西側、棗栗梨柿…なつめ栗梨柿を用意、紅東白西…赤い物は東側、白い物は西側</p>	<p>おせち料理～元々季節の変わり目の節句に神様にお供えした食べ物をいう。やがて、節句の中で重要な正月料理を、おせちと呼ぶようになった。正月、年神様に供える料理であり、各料理は意味を持ち、家族の幸せを願う縁起もの。 雑煮～神様のお供えものとして餅を飾り、その餅を家族で分けてることで、神様からのご利益を受け、農作や繁栄が得られるとして食べられていた。</p>
伝統遊び	<p>ヨンナルリギ(凧揚げ)～一年の無病息災を願い“送厄、送副、副”などと書かれている凧を揚げる。互いの凧糸を絡ませ、相手の糸を切るなど、高く上げた方が勝つ勝負もする。 ユンノリ～日本のサイコロのように遊ぶ。4つのユン(木の棒)を投げ、落ちたユンの状態でコマを動かし先にゴールして方が勝ち。 チェギチャギ～日本の蹴鞠を思い起こさせる。小銭を紙で巻いてチェギ(羽根)を作りチェギを地面に落とさないように蹴り続ける。中国から由来。</p>	<p>凧揚げ～一年の運が上昇するよう、子供の成長を祈る儀礼として行われる。 かるた～平安時代にヨーロッパから伝わった。人々が集まって遊んだものが正月の風習として定着した。 羽根つき～一年の厄をはね、子供の健康を願う。絵の描いてある板でムクロジの実(双子葉植物)と鳥の羽で作られた羽根を空中に打ち上げて遊ぶ。</p>

駄菓子と不良食品

私たちの身近にある‘日韓共通の物’というテーマで話し合った結果、満場一致で決まったのが、“駄菓子”である。

日本人にとって駄菓子はとても馴染みがあり、幼いころから皆が好む‘愛される菓子’である。韓国にも同じ様な物があるという。

それは“不良食品（プルリャン シップン）”という物である。

“不良食品”は、

- ・親が良く思わないお菓子
- ・身体に悪い
- ・何の材料で作られているか不明

等、決して良い印象では無いため、不良食品と呼ばれているのである。

ネーミングにもその特徴が出ている物があり、“ペイント サタン（ペイント飴）”等が代表的である。食べると舌に合成着色料が付着し、口を開いて見せあいながら笑ったりするようである。今思うと、決して美味しい物ではなかった様だが、不良食品は沢山の子どもたちの心をつかんでいたようである。

代表的な“不良食品”は、

- ・アッポロ（ストロー菓子）
- ・ラミョンタン（ラーメン菓子）
- ・シノドウン キャンディー（信号キャンディー）

等である。

日本人にとって駄菓子は決して不良食品のような印象では無く、高級菓子に対する、子どもでも安価で簡単に購入できる、楽しめる菓子である。大人でさえ、おつまみや間食で食べることもある。

子どもに愛されるお菓子でありながら、大人の反応が日本と韓国で真逆であることに、とても驚いた。

子どもに愛されていること、価格が安いことは日韓で共通しているため、

印象は少し違うが、駄菓子と不良食品は同じ位置づけであるように感じる。

機会があれば、お互いに食べ比べをしたいものである。

（４グループ）

申賢美・中澤貴史・藤志水舞都里・杉本亜紀子

高橋真子・高橋由美・種橋彩夏・蔡ヘラン・崔明恩・申昇熹

おもしろい 食文化

テーブルマナー

- ・ 食事をする場合マナーは韓国と日本はだいたい同じだが韓国の方が少し厳しいようだ。
(年長者が上座)
- ・ 食事の時年長者が食べる前に食べない韓国と違い、日本は少し自由。
- ・ 韓国は茶碗を持って食べてはいけない！(日本は持って食べる)
(昔、お皿や茶碗を持って食べる事は大名の奴隷がしていた行為だったため今もそのような食べ方はよくない。)

箸の使い方

- ・ 食卓に置くときの向き
韓国は縦、日本は横。
- ・ 箸で食べ物を取る時に気をつけなければいけない事は
ほぼ一緒だが日本の方がもっと厳しい。(箸だけ使う為)
箸で食べ物を渡したりする行為は良くない。

スプーンの使い方

- ・ 韓国はスプーンの文化の為いつもスプーンを使うが、日本は使わない。スープ飲む時もスプーンで飲まない。日本でスプーンを使う時はだいたい子供かティースプーン程度。

一般的に必ず食べるおかず

- ・ 韓国食卓にいつも出るおかずはキムチ、のりなどで、日本は味噌汁、梅干しなどがある。

感想

食文化について話をしながら似ている点もあるが、全然違う点も多くその理由を知った時“なるほど”と感じて面白かったです。
文化を理解するのにとても役に立ちました。

韓国と日本のお正月

韓国のお正月は旧暦、日本のお正月は新暦

日本のお正月は新暦、韓国は旧暦ですが、日本はどうして新暦を使うのかを調べてみました。日本のお正月がどうして新暦かは歴史と深い関連がありますが、日本の明治時代、天皇は政府とともに、新しく日本を統治すると発表して権力を握っていた幕府を追い出します。その後王は外国の文物を積極的に受け入れますが、この時、旧暦を廃止して西洋のように新暦を使用するようにしたので日本のお正月は1月1日になりました。

韓国と日本がいくら近いと言ってもこのような歴史文化や習慣が異なることに驚きました。

韓国の茶礼(チャレ)、日本の初詣

日本の初詣は毎年1月1日になると、近くの神社や寺に行って一年の間の平安と安寧を祈ることです。韓国の茶礼(チャレ)はお正月だけでなく、他の祝日にも行う風習で、先祖たちに捧げる祭祀です。茶礼は簡略な祭祀を意味するお茶、礼を尽くすという意味で礼言います。

二つとも新しい一年の安寧を祈る風習だが、日本の初詣が神に安寧を祈る感じなら、韓国の茶礼(チャレ)は先祖に挨拶とともに安寧を祈るという点で違いが感じられます。

正月の衣装

日本では正月になると、初詣に行く時などに着物を着て出かける人が多くいます。着物は一人で着ることが難しく、歩くときも慎重に歩かなければならないが、帯の結び方など着方が多様にあり、着る人によって個性を出すことができますと言えます。

一方、韓国では正月に服を新調する「ソルビム」という習慣があり、この時に韓服を来て祭祀を行います。韓服の特徴としては、ゆったりとしていて圧迫感がなく軽いので、楽に着られる点です。

着物と韓服は形や特徴全く異なるが、どちらも美しい伝統衣装です。日本も韓国も最近ではだんだん着物や韓服を着る人が少なくなっているそうだが、どちらもそれぞれの国を代表する素晴らしい衣服です。これらの伝統衣装はこれからも大切にしていかなければならないし、私も機会があればもっと積極的に着ていきたいと思います。

お正月の代表的な料理日本のお雑煮韓国のとトックク

日本のお雑煮は基本焼いた餅、蒲鉾、野菜と一緒に煮込みます。地域によって作り方、身、味付けなどが色々で面白いです。

韓国はキジや牛肉で出しをとってお米で作られた細長い餅のガレットクという餅を薄く切って煮込み、味付けた牛肉、錦糸卵、のりなどを乗せます。日本のような地域差はあまりありません。

日本ではお雑煮を食べるのはその年の豊かさと安全を願う意味があります。韓国ではその年の豊穰とともに年をとるという意味もあります。

面白い点は、日本のお雑煮は地域ごとに、家庭ごとに特徴が違いますが、韓国では大きく差がないという点でした。このような面から見ると日本は地方と家庭の伝統が伝えられることと、韓国は国全体の伝統が伝えられてきているということでした。

伝統遊び

日本と韓国のお正月の遊びには似たような遊びが多いです。たこあげ、お手玉、花札などがあります。

日本も韓国も昔からの遊びが現代にも受け継がれています。日本も韓国も最近、このような伝

統遊びをする人が少なくなってきました。伝統文化がなくならないためにも私たち若者が、守っていかなければならないと思います。

お正月の飾り物

日本にはお正月に飾るものがとても多いです。その中でも代表的に門松という竹飾りがありますが、これをドアの前におくことで、神様を迎えます。神様が天から降りてきた時、道しるべになるな飾りになるのです。韓国にはボクチョリがあります。元々は米の中から石を抜くために使用する物ですが、新年には米粒を取るように福を取りとめるという意味を込めて飾ります。

こういった飾り物の意味だけ見ても日本は神様を迎えるという意味、韓国は無数の米粒のような豊かさと幸福を祈るという意味の違いがあります。

6グループ：アン・ユジン、キム・ヨハン、ノ・ユミン、酒井麻緒、増山誉乃、吉田加代子、細田はるか